

## 令和元年度事業計画

### (1) ワーキンググループの開催（平成31年4月～令和2年3月）

昨年度に引き続き、各部会ワーキンググループにおいて、それぞれのテーマについて検討を実施する。

（各ワーキンググループを3ヶ月に1回程度開催する。）

また、ワーキング横断型の取組みに関する検討を実施する。

### 【素材関連ワーキンググループ】

（反射、遮熱、断熱等に資する素材の研究、具体的活用の提案）

米国ローレンスバークレー研究所ヒートアイランドグループが主催する Cool Building Solutions for a Warming World working group の活動状況を把握し、連携の可能性を検討する。

## 【熱有効活用・人工排熱低減ワーキンググループ】

（潜熱化、排熱利用、省エネ・新エネ・代エネ技術（ESCO 含む）による対策手法の調査、活用）

### ①人工排熱の大気熱負荷削減効果の推奨制度の確立

- 1) 空冷空調機用排熱低減対策装置による人工排熱削減効果および熱汚染対策効果の推奨方法
  - ・ 空冷空調機用排熱低減対策装置の調査
  - ・ 蒸発量データ等による大気熱負荷削減効果の検証方法の確立
  - ・ 排気温度調査等による熱汚染対策効果の検証方法の確立
  - ・ 推奨範囲（推奨対象、期間など）の設定
  - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果の関連性調査
- 2) 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術を対象にした大気熱負荷削減効果の推奨方法
  - ・ 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術の調査
  - ・ 河川水・海水利用、地中熱利用に関する経験を有する新たなWGメンバーの選定
  - ・ 運用データを用いた大気熱負荷削減量の効果の検証方法の確立
  - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価
  - ・ 人工排熱を大気以外の媒介に処理する技術の設計段階における効果推奨方法の検討
- 3) 大気的直接冷却技術の調査
  - ・ 空気熱源ヒートポンプ、冷却塔、水噴霧など大気を直接冷却する技術の調査
  - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価
- 4) 推奨制度の確立
  - ・ 設計段階と運用段階での制度確立
- 5) ZEB・ZEHにおけるヒートアイランド対策効果の評価手法の検討

### ②熱有効活用・人工排熱低減に関する情報収集・調査、検討、及び広報

- ・ 学術研究者や会員を講師にした関連技術等の話題提供や情報交換を行うとともに、情報収集、文献調査を実施する。
- ・ 近年、温暖化対策への取組が強化され、住宅や業務用建物に対して ZEB や ZEH 等によるエネルギー消費削減と再生可能エネルギーの導入に対する取組が強化されている。この取組がヒートアイランド対策にどのような影響を与えるか総合的な検討を進めるため、ゼネコン業界、エネルギー業界、自動車業界、住宅・ハウスメーカーの関係者と情報交換を行うとともに、情報収集を実施する。

### 【クールスポット創造技術手法ワーキンググループ】

（緑化、水活用（噴霧、散水）等技術手法の研究、具体的活用の提案）

- ①緑化技術に関する情報収集や事例見学会等を行う。
- ②平成 26 年度に作成した簡易測定装置により、測定依頼があった場合、実際の屋上等の施工現場で実測を行い、屋外現場での装置の測定性能評価を行う。
- ③水を活用した道路を冷ます技術や、保水性資材を用いた温度低減効果など新たな技術についての情報収集を行う。
- ④随時、緑化技術をはじめとした様々なクールスポット創造技術に関する情報交換、及び他のWGとの情報交換を行う。

（参考）簡易測定装置を用いた測定状況



### 【熱負荷評価手法ワーキンググループ】

（熱負荷削減評価手法の検討）

引き続き、認証制度の対象となる技術の追加が検討される際には、関係のWGと連携して、当該技術に関する WUFI Pro を主カシミュレーションツールに据えて、入力パラメータの調整や入力条件の整備等についての検討を行う。

### 【都市デザインワーキンググループ】

(地域における「あるべき都市デザイン」の検討・提言)

- ①クールスポット・クールロード 100 選や過去のアイデアコンペの成果を用いたワークショップを実施し、WG横断的勉強会での新たな対策技術、特に適応策への貢献や新たなライフスタイルのあり方等を検討する。
- ②啓発活動の一環としてクールスポット・クールロードの現地研修会を実施し、その際、暑熱環境等の計測技術を講習するとともに HITEC 会員企業のヒートアイランド対策製品の効果確認とPRを実施する。
- ③大阪府クールスポット 100 選（平成 24 年夏実施）及び大阪府クールロード 100 選（平成 27 年度夏実施）のホームページを継続しつつ、新たな情報発信の手法について検討する。

### 【ヒートアイランド適応策導入に向けた WG 横断勉強会】

- ・執筆内容の情報交換を行い、執筆作業を進める。
- ・拡大横断勉強会で執筆内容を紹介し、議論の結果を必要に応じて執筆内容に反映する。
- ・拡大横断勉強会において、今後の大阪 HITEC としての取り組みの可能性について議論を行い、その結果を踏まえて今後の活動方針を検討する。

### (2) 認証制度運営委員会、認証制度、審査委員会の開催

認証制度申請に応じて承認に関する審査会を開催する。

### (3) 企画運営委員会の開催

検討部会の進捗状況等について検討するため、年 2 回程度開催する。

### (4) 理事会の開催（令和元年 6 月）

総会の開催にあたって、以下の検討を行い、総会に上程する。

- ・会議の進め方
- ・平成 30 年度事業報告、同収支決算
- ・令和元年度事業計画（案）、同収支予算（案）

### (5) 令和元年度総会の開催（令和元年 6 月）

以下の項目などに関する決議。

- ・理事及び監事の選任（再任）
- ・平成 30 年度事業報告、同収支決算
- ・令和元年度事業計画（案）、同収支予算（案）

**(6) セミナーの開催**

ヒートアイランド対策技術に関する啓発セミナー等を1～2回開催する。

**(7) 部会活動等の周知**

各部会で検討された内容等をまとめたニュースレターを1～2回発行する。

**(8) ホームページの充実**

コンソーシアムの活動成果等について、随時更新を行うとともに、大阪HITECヒートアイランド対策技術認証制度において認証された製品等について公表する。

**(9) 大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムPR用リーフレットの配布**

普及啓発、検討部会への参画を促すとともに認証制度、製品のPRを行う。

**(10) コンソーシアム等の認知度・ブランド力の向上**

ヒートアイランド対策技術を普及させるため、コンソーシアムのブランドを可視化したロゴマークを作成するとともに、対策技術の認証制度のロゴマークの改正や、各周知媒体のロゴマークによるPRなど、会員の協力を得ながらコンソーシアムの認知度・ブランド力を高める。